

をかけて頂いた以外は、誰一人として「何をしていますのですか？」と声をかけてくれた方はいませんでした。取り上げて頂いた新聞社も毎日新聞、北海道新聞、徳島新聞のみでしたし、数十年前ならば、取材とまでいかななくても声ぐらいはかけてきたのではと思います。司法も反動化が進んでいますが、マスコミ関係も資本家がメインスポンサーだけに、その意に反する放送や記事は取り上げないと思わざるを得ません。

しかし、マスコミは駄目だと嘆くより、まだまだ社会に対する影響力があるだけに、どう取り上げてもらうのか、工夫をしていかなければならないと感じました。

行動を通じて、国会周辺に残した私の足跡は、1,733周、約2,304km、54日間連続フルマラソンギネス記録。(未公認)

行動への総参加者：約950人。

伴走：ランニング約176人、約3,100km。自転車約124人、約1,264km。

徒歩約27人、約74km。

鳩山連立内閣も様々な問題が山積していますが、23年間、問題を放置され続けている当事者、家族の思い。闘い半ばで解雇の理由すら聞かされず亡くなった59名の方々の思いを乗せて走った距離、行動に参加して頂いた方々の思いは、山積している問題に比べても決して軽くありません。改めて政府に私たちの求めている「雇用・年金・解決金」の解決を早期に決断することを強く求めます！

【国鉄闘争支援四国共闘会議合宿】

12月26日(土)～27日(日)高松市「義山荘」で国鉄闘争支援四国共闘会議合宿が開催されました。12月24日に国会前54日間のアピール行動を終えて、すぐの行動でハードスケジュールではありましたが、解決に向けて大事な時期でもありますし、例年開催していることから、四国共闘の方々と打ち合わせをして、上京する前に日程を決定していました。

中央から内田泰博中央共闘事務局長に参加して頂きました。内田さんは54日間の行動期間中、殆ど毎日のように顔を出して頂き、大変お疲れのところ、しかも北海道に帰省する日を延ばして参加してくれました。内田さんからは「国鉄労働者1047名問題は、どのようにしたら勝利解決が出来得るのか」という演題で1時間半程、講演を頂き、質疑や各県から意見を出してもらいました。



内田中央共闘事務局長

・2.16集会を勝利集会にと言っているが、本当にそこまで進展しているのか？そこまで解決させる具体的な運動提起は？・早期に解決してほしいが、全員が納得できるのか心配。納得できない人はどうするのか？・国鉄問題は国策で行われた。請願運動でなく、請求運動でなければいけない。責任追及、怒りを持って運動をしてほしい等々活発に意見交換がされました。

あっという間の2日間でしたが、まとめとしては「解雇者を抱えたときどこを大事にするのか？当事者の意見を大事にしなければいけない」と、自分の運動経験に基づいた、河村洋二さん(国労闘争団を支える徳島の会代表委員)の言葉に尽きると思います。